

敦賀発電所2号機の第13回定期検査の状況について
(加圧器逃がし弁用管台部の点検状況について)

当社、敦賀発電所2号機（加圧水型軽水炉：定格電気出力116万キロワット）は、平成15年9月5日より第13回定期検査を実施しておりますが、9月9日16時頃、格納容器内に設置されている加圧器逃がし弁ライン*1の管台部点検のため保温材を取り外したところ、当該管台部表面にほう酸の析出（白色、粉末状）を確認しました。その後、当該管台のほう酸を除去し、スンプ測定*2を実施したところ、翌10日8時頃、当該管台部の溶接部表面にごく微小な割れを確認しました。

以上から、1次冷却材（ほう酸を含んだ水）が当該管台部から漏えいし、水分が蒸発した後、ほう酸のみが固まったものと推定しました。

また、加圧器安全弁等につながるラインの管台部4箇所については、ほう酸の析出は確認されませんでした。

今後、当該管台部について、超音波探傷検査等の詳細点検を行い、割れの原因について調査します。

なお、本事象による環境への放射能の影響はありません。

(経済産業省によるINESの暫定評価)

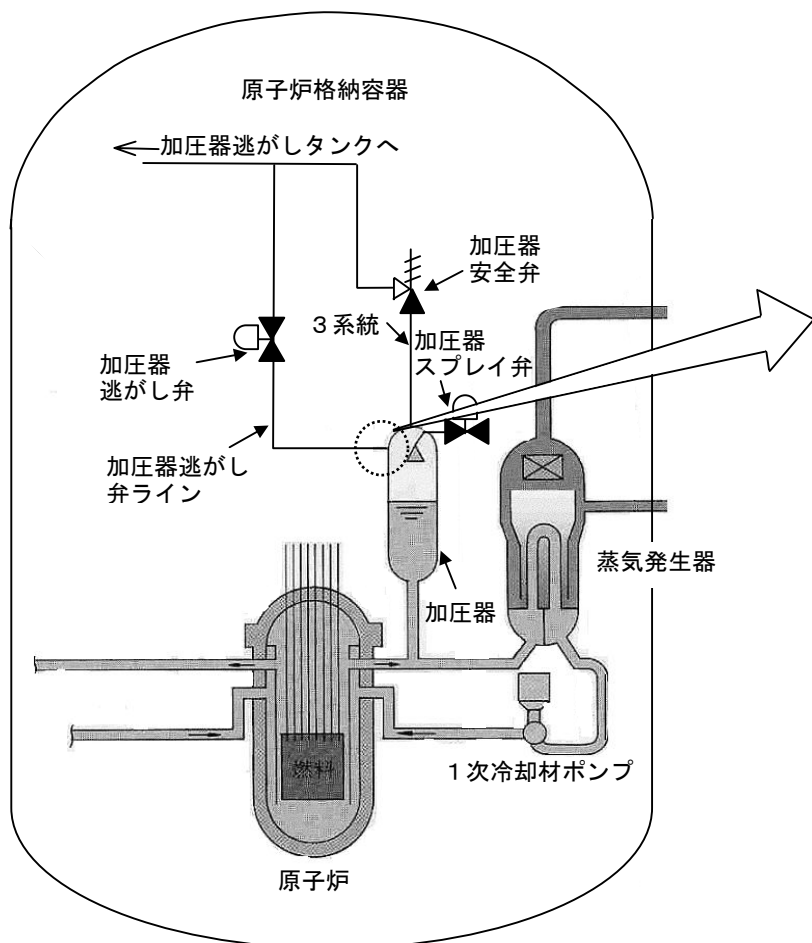
基準1	基準2	基準3	評価レベル
—	—	0+	0+

*1) 加圧器逃がし弁ライン	加圧器は、1次冷却材の圧力を制御している機器で、逃がし弁ラインは、加圧器上部に接続され、加圧器内の圧力調整のために蒸気を逃がす役割をもつ。
*2) スンプ測定	金属表面の欠陥の形態をフィルムに写し取ることによりその形態を確認すること。

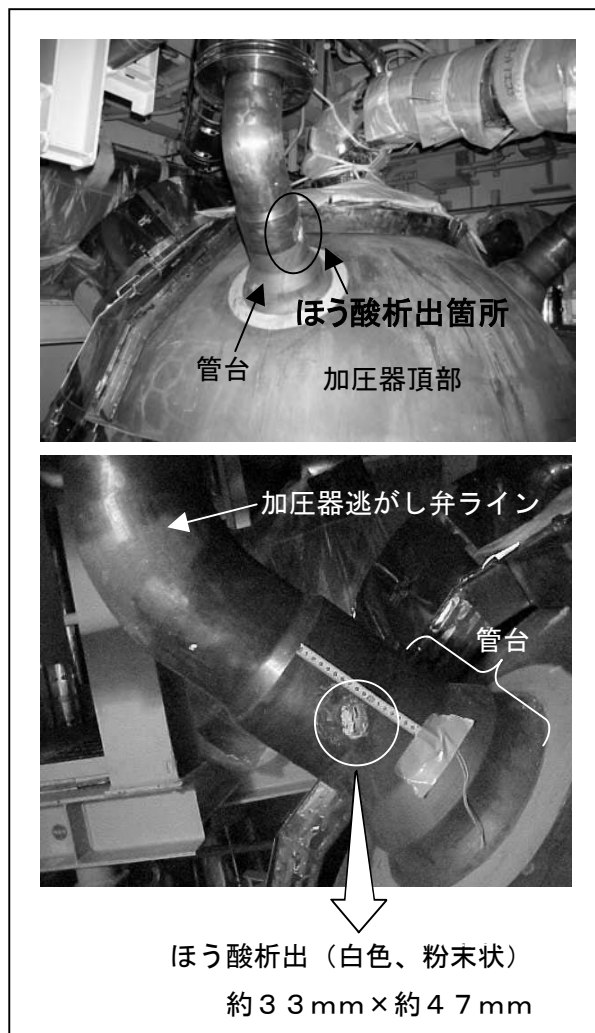
以上

加圧器逃がし弁用管台部の点検状況

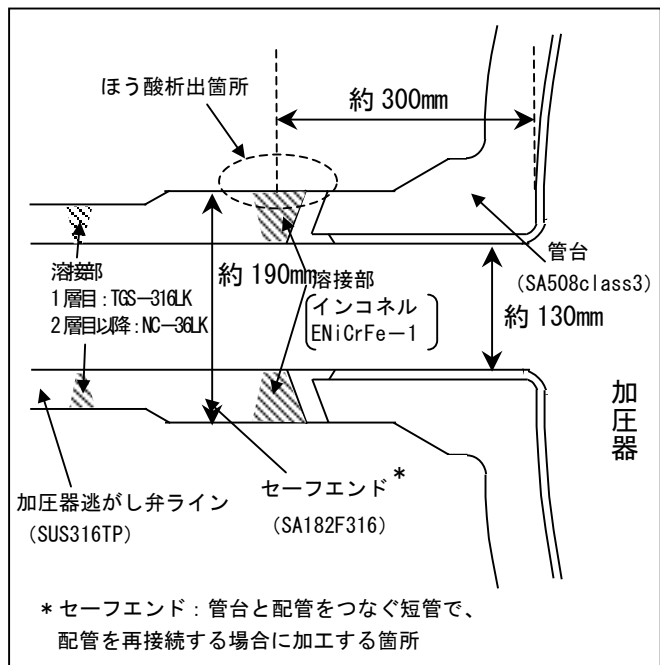
概略系統図



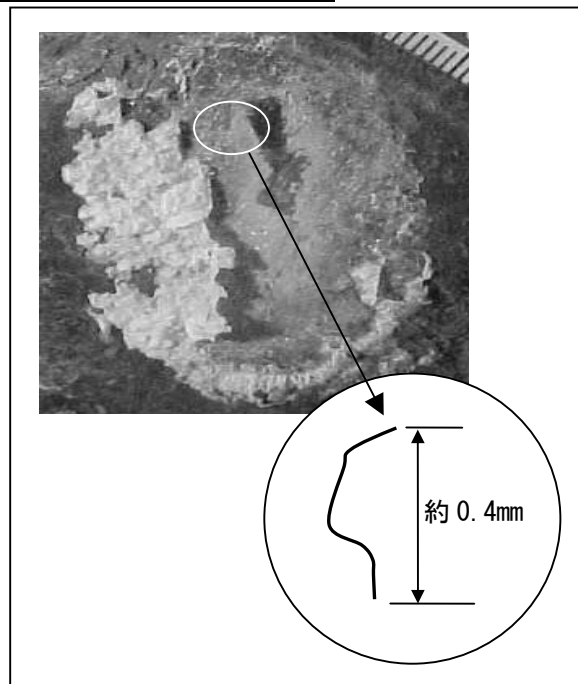
管台部のほう酸析出状況



管台部断面図



スンプ検査結果スケッチ図



管台部ほう酸析出状況



管台部ほう酸析出部拡大写真



スンプ検査結果

